

ユニバーサル・サービス制度に関する国際比較研究

— 日中韓台を事例として —

○華金玲 Jinling Hua

Keywords : 情報格差、社会的平等性、制度的仕組み、指定対象、政策執行

1 目的

グローバル化社会における最大の課題の一つは格差解消と考えている。中国や東南アジアなどの経済力が高まる中、地球規模の格差は一見解消されつつあるようにも見えるが、それぞれの国内格差はむしろ拡大している。格差拡大はポピュリズムを生み、社会を不安定化させかねない。

本研究は、情報の格差を温存している根本的な原因は情報通信サービスの社会的平等性にあり、5G はより多くの情報テクノロジーを活用できるプラットフォーム、デジタル社会の重要なインフラ、日常生活の新たなライフラインにもなりつつあると考えている。したがって、5G 時代のユニバーサル・サービスにおける政府の関わり方、果たすべき役割を把握すべく、日本・中国・韓国・台湾における通信のユニバーサル・サービスに関する国際研究を行っている。情報格差問題に対する政府の制度的仕組みからアプローチすることによって、5G 時代に適応する新たなユニバーサル・サービスのあり様を探索的に考察している。

2 方法

本研究は、日本・中国・韓国・台湾現行のユニバーサル・サービスの指定対象、政策立案、政策執行、補助金支給などから国別に現状を調査した。

3 結果

調査・分析の結果、国・地域によってユニバーサル・サービスに対する概念の捉え方、社会的含意、政策立案も執行も異なっていることがわかった。そこで本研究はそのような違いが生じている原因究明よりも、これからのデジタル社会に相応しい制度とは如何なるものかに焦点を絞って考察し続けている。

4 結論

以上により、日本・中国・韓国・台湾現行のユニバーサル・サービスを類型化することにした。中国のような中央集権的で中央政府と地方政府がより緊密に連携をしている政府主導型、台湾のような先進的な通信サービスまでユニバーサルアクセスを徹底的に保証しようとする民主主義型、韓国のような細かな指定対象項目や損失補てん率を設けた上、障害者・低所得者層への料金減免まで網羅した徹底補償型が導き出された。これらの諸外国の事例から見て、日本に相応しいユニバーサル・サービスのあり方について考察を重ねている。

【主要参考文献】

林紘一郎・田川義博『ユニバーサル・サービス』中央公論社,1994 年.

大橋弘「我が国におけるブロードバンドのユニバーサルサービス化について」情報通信学会誌 Vol40 No.2(2022),p37-40.

神津実・キムダジョン「韓国ブロードバンドの普及とユニバーサルサービス指定」—ブロードバンドにおけるユニバーサル制度の問題—,第 44 回情報通信学会大会,2021 年 6 月.